

解放直後・在日済州島出身者の生活史調査（11・下）

—— 金玉煥さんへのインタビュー記録 ——

藤永 壯／高 正子／伊地知紀子／鄭 雅英／皇甫佳英
高村竜平／村上尚子／福本 拓／高 誠晩

A Survey of the Life Histories of Resident Koreans in Japan
from Jeju Island in the Immediate Postwar Period (11) — Part II —
— An Interview with Kim Okhuan —

FUJINAGA Takeshi, KO Jeongja, IJICHI Noriko, CHUNG Ahyoung
HWANGBO Kayoung, TAKAMURA Ryohei, MURAKAMI Naoko
FUKUMOTO Taku, KOH Sungman

4・3 事件（続）

《朝天へ移って》

——^{チョチョン}朝天に行ったのは、何か理由があるんです？

金：伯父さんが最初来て、大きな瓦屋根の、四つ角にある家を買った。その時、250万ウォンやって。その時、大きなお金だ。250万ウォン持って、その家を買って、みんなこの家で暮らせと言って。それで、朝天のその家に行って暮らした。

——そして、あと、その伯父さんの家に一緒にずっと農業したりして生活したんですね。

金：朝天行った後に、その家に暮らして、お父さんがその時は、[済州に] 来る人にお金

平成24年7月2日 原稿受理
大阪産業大学 人間環境学部

を預けてしょっちゅう送ってくれるから、何の心配もなく暮らした。

—お父^アさん^ボがお金を送ってくれたのですか？ いつも。

金：うん、その時には本当に金貸しもし、また農作業も、小作をさせてくれるから農作業も多くて。食べる人もいないから、その時は金持ちと言われたよ、うちが。何の心配もなくて。私は、勉強はできなかった。だけど、家は本当に日本の家のように建てた家だから、とてもきれいで、主任や書記〔役人〕や先生〔地位や学識のある成年男性〕が来れば、私の家で暮らして。私の家だけに来て。

光州から来た巡査が、来て暮らしていた。きれいな娘の、18歳になった娘を妻にして暮らして。〔その娘は〕嫁にも行かず〔正式な結婚もできず〕、それで暮らしていると、一度お母さんが訪ねてきた。その男のお母さん、光州から。髪を真ん中で分けかんざしを差し〔朝鮮女性の伝統的な髪型で〕、服装を見ても普通じゃない〔良家出身のようだ〕。それで、嫁を見て「実家のお母さん、お父さんは何をして、病気はあるか、ないか？

結核はあるか、ないか、みな。農作業はどのくらいして、家や、畑や、みなあるか？

兄弟は何人か？アイゴ、身体つきが……」〔と言って〕。そうして腹を立てると口笛を吹いて。〔息子に〕「この^{ムンドクンイ}ムンドクンイ〔ハンセン氏病患者。かつては蔑称として用いられた〕め。お前に、この汚らしい巡査〔という仕事を〕、誰がやれと言った？ 人のやる仕事ではない、この汚らしい巡査、どうしてこれをするのか」と〔言う〕。〔息子を〕連れて行って、大学へ行かせると。「大学もせず〔行かず〕に、ここでこの仕事をしろと、誰が言ってここへ来たのか」と、悪口をまくし立てて。それで息子を連れて行ってしまった。その女性は妊娠していた。お金も一銭もなく、食べるものもないでしょ。どんなにかわいそうだったか。

—〔金玉煥さんは〕学校行きました？ その時。

金：学校に行けず……。

—友だちは？

金：友だちも咸徳で暮らしていて、14歳になって朝天に来てしまった。だから、朝天に来てしまったから、歳は小学校へ出て来る歳ではなかった。いくらなんでも14歳なら、卒業していなければならぬのに、そうもできず。それで〔済州に〕来るまで、3年までは日本語だけした。済州島の言葉はできなかった。

—夜学も行かなかったのですか？

金：その後は夜学に通った。夜学に通って「가가거겨」[ハンゲルの最初に習う部分]も聞いて。私が習ったのでは、九九を覚える方法が一番よいと思った。それは、その時に学んだこと。今も、何年経っても、日本語で $2 \times 2 = 2$ 、ニニンガシ、ニサンガロク。それはできないよ、ここで計算しようとするば。「 $2 \times 2 = 4$ 、 $2 \times 3 = 6$ 、 $2 \times 4 = 8$ 、 $2 \times 5 = 10$ 」、それ以外はできない。日本語ではデキナイ [できない]。

—その時、夜学で誰から教えてもらいましたか？

金：先生。昼に教える先生が。

—何歳の時に学びましたか？

金：14歳で。15歳の時に。

—国がどうで、軍人がどうで、こんな話は……。

金：そんな話とはとてもできない。だけど、頭に、一つ覚えているのは国語の本に「クンクンウルルンクンクン、聞こえる大砲の音がもの悲しく聞こえます。山が響き、野原が響き、窓も響きました。ヨンチョリはそれが怖かったのです」。それは一つ、国語の本にあること、それが頭に残っている（笑）。

—夜学は朝天で？

金：朝天で。

渡日後の父と兄の生活

《大阪から東京へ》

— [密航後に] お兄さんは、そこ [大阪の叔母の家] に行ったんですか？

金：いや、ニイサンは叔母たちと一緒に [日本へ] 来たから、何日間かはそこにいたようだ。ソノトキ [その時] 東京に行って。トウキョウの伯父さんがかなりの金持ちだ。前の戦争、終わったとたんにガラス工場をしていて。

—何をつくる工場ですか？

金：ガラス。ガラス工場なのか。東京で一番大きなガラス工場。

——^{ヘムドク}咸徳の出身ですか？ ^{ヘムドク}咸徳の人で、東京で一番の工場。聞いたら分かる？

金：うん。

——兄さんはそこに行って。

金：そこに行って大学まで出てきて、お父さんも [東京の伯父のところ] 来て [仕事を] した。ガラス工場で。

——東京に。

金：うん、東京へ行って。[そこで] 暮らしても月給をくれなかった。お父さんはお金を借りて行ったのだけれど、その金を返さないといけないのだけれど、お金をくれないから。金をくれとは言えないし。

[そこで父は] しかし、「私が出て行かなければ」と言って [工場から] 出て行って、日本人の女性と出会う。「おまえ、私と暮らすのか？」と言うと「暮らす」と。それで、「お前、何かあるのか」と言う、キモノと鏡台。「鏡台とキモノのほかにはない」と言うから。「それを売って商売しよう」。「私と一緒に暮らす気があれば」と言う「そうしてもよい」と。キモノを売って。

その時は、キモノはネダンを高く売った。キモノを売って、鏡台、鏡。それを売って、服の3,4着買って包装すると。その時に服が貴重な時だから。買ってきて、また売って、お金が。例えば、千円分買ってきて服を売ると3千円残り。今度は3千円分買い、また売ると5千円が残り。5千円分、また買っておくと、また1万円になり。1万円分買うと2万円になり。それを面白がって商売をするようになると、今度は小さい、あの、市場にあるような店をひとつつづって。ネダンでも、何個かくれと言えれば少し安くしてくれる。日本の女性だから、ネダンが付けられたら、そのネダンどおりに [買う]。そうして暮らしていたが、また「あ、この女性と暮らすと商売がうまくいかないようだ」と言って、今度はこの女性と別れた。

その女性と別れた後に、また陸地 [朝鮮半島本土] の女性、陸地の女性が来たが、これは本当に、並の性格のよい人ではなかった [とびぬけて性格のよい人だった]。だけど、商売も上手で。その商売をはじめ、本当にお金も儲け、その時は成功して。その時は、また [日本に来ていた] お母さんが病気になって本当に大変で。その時に叔母さんが [母のところへ] 来て、「アイゴ、しっかりして。あんたとこの旦那はお金をたくさ

ん儲けている。これ、金持ってきた」と言って。お金、その時お金たくさん持ってきてくれた。だから、お母さんがそのお金を見ると、元気になって、病気が、そのまま [治った]。人はみんなそんなものや。お金がないと死にそうでも、お金を見ると元気が出てきて。その時、そのお金で成功して、私たちも暮らせるようになって。オトウトひとり私と。お父さん [のところに] はその時来た。そのまま [父は] 仙台で亡くなって。

《東京から仙台へ》

——仙台？ 何で仙台に？

金：仙台に行って暮らすようになって。だから、私らもニイサンと仙台に行ってケッコン、結婚して来て。今は息子3人と娘ひとりいても、息子3人がみんな病院の院長。東北ダイガクをみんな出て。ニイサンは32歳で亡くなってしまって。早く亡くなってしまって。だからネエサン [義姉さん] 苦勞して。息子らはみんな育てて……。兄さんの嫁さんは私と同じ歳。

——今も仙台に？

金：仙台に、みんな。

——^アお父さんは^ボずっと^ジ仙台に？

金：お父さんは77歳で亡くなり。また、お母さんも85で亡くなって。

——^オお母さんが^モ日本に^ニ来られたのは、いつですか？

金：その時が何歳の時かな。70何歳の時来て。仙台でお父さんと一緒に……。その時、[母は] 来ても [父に自分のほかの] 嫁さん [いるのが] 分からへん、やっぱりな。^オお母さんはそれがな、腹立ってな。結婚して苦勞しながら暮らしてきたが、ここまで来て、自分のところへ来ないと言って怒って。

——ずっと離れて。

金：そう、そう、そう。日本に来てもお母さんは大阪で暮らして、お父さんは仙台で嫁さんもらって住んでるし。チャンスク叔父さんが仙台で三番目の金持ちや。あのチャンスク叔父さんが [事情を] 聞いてね、「兄さん、そんなんしたらダメです」。だから、その叔父さんがお母さんの親戚や。だから、仕方なく [父が叔父の言うことを] 聞いて嫁さ

ん [と] 別れて、お母さんが一緒に暮らすようになり……。

——お母さんは濟州から大阪に來られて住んではったんですね。それはいつくらい？ 解放になって、濟州へ行って……。

金：いいえ、解放されてから、だいぶ後。

母と玉煥さんの渡日

《母の密航》

——一緒に來られたんですか？ お母さんと。お母さんと。

金：お母さんが何カ月か先に來て、その次に私が來た。

——じゃ、玉煥さんが何歳？ 何歳の時に？

金：40。はじめな、39の時來て、一回引っかかって。

——日本に來られたのは、解放になって、いつくらいです？ お母さん [金玉煥さん] のお母さんが。

金：私より1年先に來て。

——それも密航？

金：うん。密航で。

——お母さんが來たのは60 [歳] 近かったかな。お母さん [金玉煥さん] が39で來たから。それは誰かに頼んで、知ってる人に頼んで、お金は出して行くんですね。濟州で誰に頼んだらいいというのは分かる？

金：その時な、人を隠しながら [人を隠して密航させることを]、斡旋する人が來る。[日本に行きますか？] 言って。ばれる [ことに] なったら斡旋した人を捕まえて、私らも行けば殴打されて。だから、その斡旋する人は隠れて來ると。無事に行けば、お金は、お母さんが金は日本で払うと約束した。ここ濟州島でお金を払う人は濟州島で払い、日本で払うと言う人は日本で払い。それを約束した。お母さんは、どうしても日本へ行けば、払うと言ったようだ。

——^{チェジュド}済州島でそういう話をしたんですか？ 釜山に行ってから？

金：済州島で[金を]払ってくると、連れて行く人が、斡旋する人がいる。斡旋する人、ひとり、ふたりではない。こちらに渡って話をする人、連れて行く人、船でまた紹介する人。この人ひとり連れて行くには3人の手を経て日本に来る。

《玉煥さんの密航》

——何年生まれになります？

金：1938年生まれ。昭和13年。

——結婚は何歳でされたんです？ ^{チェジュド}済州島で。

金：21の時。

——39歳で日本に行こうとしたんじゃないですか。理由はなんだったんですか？

金：離婚もしたし、そのまま、日本に来て暮らすはずなのに。

——^{チェジュ}済州で、別れたんですか？ 旦那さんと。ひとりだから日本に行こうと思って？

金：そう、来る途中で引っかかって。それでまた来て、5年が少し過ぎてから引っかかって。また3回目で来た。39の時、船53人乗って、船のまま対馬で来て捕まった。その船で塩を載せているように上に包装して。上にだけ塩を置いて、下に50人隠して。

——済州島から？

金：えっと、釜山影島カラ [から]。そうして、その釜山の影島カラ、その船に乗ったが、8月に、8月カラ、大変暑くて。それ[密航者がいる船底]を塩で塞いで置いて。ここ[船底]でバケツに吐いて、便をしたのをそのまま。[悪臭で]その場で気絶して死にそう。そうして、本当に「3回[3日]だけ超えると、ほぼ着いたので心配するな」と。「明日、明後日。8月[は]名節[伝統的な祝祭日]だから。8月の名節は日本に行って米を食べるようになる。心配しないで」。そうして。アイゴ、その、苦勞して、我慢しなければと思って。

だから[手入れが来て]一カ所コンコン叩いても、そのまま通り過ぎて行った。イッカシヨ [一カ所]、また通り過ぎたが、「アイゴ、気を付けて」と言っ。また行くとコンコン。こちらへも来てコンコン、あそこにも行ってコンコン。「ここに塩を積んでい

るのは間違いない」と言って。一カ所だけ済んだら、終わった。船が、トントン叩いて、またトントンとして。私たちはすっかり、ワカルネ [分かるね]。ここでこうして支えていると、ここに来て叩くと、コンコンという音がして。まるでネズミのように、こんなふうにして座っていたら、ダダダーッと来て「この中、何がおる！ 豚がおる！」そう言って、それをパッと剥がして、板を剥がしてみると、糞やらなにやら、ほんま豚や。豚の臭いがくさい。出て来たらな、船酔いして。人が、そのままびっくりして、水を飲もうとして「水ください、水ください、水ください」。水を飲むと下痢をして、そこでみんな死にかけて。それでその [手入れに来た] 船に乗った。

そうして、今度は対馬、拘置所に。こう出て来ると、最初に出て来ると「1番」こう書いて、2番目に出ていく人は2番。私は5番目に降りていったから「5」と書いてました。ゴバン [5番]。だけどその時は名前も知らないから、番号で読んだ。5番、3番。それで番号、最初に付けたもので呼んで。それで拘置所に行って何日かいて。それで大村収容所^{(5)*14} に行って。私、密航3回して、行ってないとこない。釜山矯導所 [刑務所] 2回、大村収容所2回。何、それを話そうとしたら……。

—大村収容所に行ったのが、そこから船に乗せて帰されて、釜山矯導所に行ったんですか？

金：そう、そう。しかし大村収容所は、人がいっぱいになれば船乗せて。そこで、食べたいものを食べて、歌しながら遊びながら、何でも自由。そこで、大村収容所では自由、何でも。歌もやろうし、何でもできるし、何でもできる。食べ物も「なにになに食べたいですか」と言って、年上のおじいちゃんみたいな人が来て、「どうですか」言うて、やさしく聞くので。しかし、釜山は矯導所に入ったらご飯がな、水にぶっかけると虫が、これくらいの虫が出てきて。虫、米に虫。それを見ると食べられなくて。すると、ガイショク [外食]、少し、少しずつ呼んで食べて。これくらいの虫が1匹や2匹がチガウ [1匹や2匹ではない]。水にこう、こう、入れると虫が浮いて来て。

—そこでは何をするんです？ 釜山矯導所で何か、取り調べとか？

金：取り調べするのが、^ト 虫 [また] 怖いね。[朝鮮] 総連の人が引つかかると、ぶん殴られて。一度で死んでしまう。だけど、私もそこ行ったらな、「親戚おるやろな」「親戚だれもいないですよ」「え、おるのに。あなたの^{イモ}叔母におるやろ」。一発「^{イモ}叔母見たこともないし、聞いたこともないですよ」言うてしもた。いっぺんでそんな嘘ついてしまった。^{イモ}叔母おるのに。^{イモ}叔母は総連で隊長や(笑)。共和病院の院長だ。だから一発言うことが「あ

あなたの叔母おるやろ」言うて、「や、見たこともないし、うち聞いたこともない」です。いっぱい嘘ついて。叔母おるよ。おる。うち 제주도 말로 [済州島の言葉で] そんな言っていましたよ。あの 일본에서 [日本で] 捕まった時も、調べする時、「あなた叔母おるやろ」。[私が]「叔母おりませんよ」言うても [取調官は]「え、おるよ、おるよ」。

それで矯導所に行って、懲役をくらって入った時も、裸 [に] になって。何の薬かナニカ、頭から裸 [に] になって、こうして入る時、注射打って。寒くなって痛いのに。ここ [留置場] に入って来ると、奉仕員と言って、そのへやにオヤブンがいて。女がな。長く [留置場で] 暮らしているから。オヤブンがいて「名前はなんですか?」というから「キム・オクチャです」。「何で入ってきた?」「密航罪です」。「うん、密航罪は、すぐ出て行くよ。だったら歌を歌ってみてください」。私より、3日前に入った子がいて、「姉さん、雜打令 [正樂 = 雅樂以外の歌の総称。俗謡]、民謡歌ってみてよ。民謡歌って。ぜひ民謡歌ってください」。アイゴ、ここがこんなに腫れて痛いのに。「早く歌ってください」[と]言われて、それで、私が歌うのですが、何の歌を歌ったかというに「4月の8日にはお釈迦様の誕生日です。家ごとに灯りをともして子孫の幸せを祈ります。眠らないと夢も見られない。あるじのいない私は必要なし。얼씨구 절씨구 지화자 좋네。遊ばずにはいられない。7月の7日には織姫と彦星が会う日。天の川の橋の遠い道に1年に一度会う日。얼씨구 절씨구 지화자 좋네。遊ばないわけにはいかない」。こう言って〈一同：拍手〉。

この歌を4番まで歌った。アイゴ、びっくりした。「この部屋にはどうして歌の上手な人が入ってくるの。この部屋がまた一等になったね」。その人が出ていってしまったから、また歌、上手な人が入って来たって。それで、クリスマスがやってきた。

——矯導所にどれくらいいたんですか?

金：1カ月。密航で行った人は1カ月。

—— [密航するときに] いくらで来たのですか?

金：日本で100万円あげ、ここで20万円。

——日本円で20万。済州島で100万ウォン?

金：100万ウォン。

——お母さん [金玉煥さん] が日本に来る時に、最後、成功した時のお金は済州で一回払って乗って、日本に着いて、また払ったんですか?

金：だから、その[失敗した時の]お金は返してくれた。引っかかって入ったから。心配でなければ、私たちがまた紹介してくれる[ということ]で。

—2回捕まった時は返してくれて……それで2回目に行ってまた失敗したじゃないですか。また返してくれた？ 2回目。

金：その時は、よく分からない。最初に引っかかった時は、お金をみんな、また渡した金だから。心配でなければ、また行く時は私たちが斡旋してあげるから、心配するなど。

—いつも、3回とも同じ人？ 同じ人に頼んで？

金：同じ人、ひとりやけど、顔は変わらなアカンねん[顔は変えなくてはならない]。例えば、私が[その]人の顔を知ったらダメらしい。顔の知らない人にしょっちゅう変わり、変わって。顔、知ってる人と言ったら、取り調べがきついと。私が話してしまうと。

—それで全部違ったけど、ルートは同じ。

金：呼ぶところはひとつでも枝はいくつか。

—^{サンジ}山地 [港]、^{チエジュシ}濟州市から出発ですか？ 出発するところは？

金：濟州島でみんな約束して。今度は釜山から電話が来て。私らと一緒に来た一行だけけど。電話が来たら「やあ、タマチャン、船あると言ってる。今日、行こう」。すると、今度は船に乗って、影島に行って。影島に行けば、どここのキッサテンにいろと言っている。それで、どここのキッサテンに行って座っていたら、知らない人がこそと来て座る。すると、勘で分かるけど、それでも知らないふりをして離れて座って。集まって座ったらダメだから。みんな別々に座って知らないふりをして。そうして、ひとりがウインクしてひとりが出て行けば、ついて来いと言って。後ろを見ながら、見ながら出て行って。出て行って、ひとつの家に入って、このような入って、こんな[家具などをしまっておく]小部屋の中にみんな隠して。座れと言って。誰が来ても答えるなど。あれば、ご飯のようなものを、いい食べ物を持って来てくれて。食べるものは、いいのをくれた。

今晚出発するから、準備しろと。何時にするから。その時、6時、6時だから、オトコがひとり、女がひとり。まるで、遊びに行くように、埠頭に遊びに行くように。話したくなくても、親しそうに話して笑うと。こうでもない、ああでもない笑いながら。そうして、船がひとつ発ち、また船がひとつ発って、三つ目の船に[乗った]。だから、靴の音を出してダメだから靴をみんな脱いで、手に持って。カバンをひとつ持って、行

く時は這って行って。こうこう這って行けば、誰かが手でぱっと引っ張って。すると、下に落ちると、マックライ [真っ暗い] 部屋で。

そこに落ちたら「誰だ?」「どこから来たのか?」と言うので「私は朝天から来た」「私は咸徳です」。金寧の人もいて、涯月の人もいて。暗いところで誰かが手をパッと引っ張ると下にどーんと落ちるの。密航が人を殺すんだ。本当に密航で来る時、水 [海] に落ちたら、助けてくれずに放っておかれる。その、ジェット機のような飛行機がある、船がある、スイスイ走る船 [水中翼船か?]。それは5人ずつ乗っていくやつ。そこは対馬に行けば危険だ。だから、行く途中で [日本に] 入る時、私も最後に行く時はこの船から大きな船に乗り換えると、嘘をついたようだ。その小さな船に7人乗って。「対馬に来た!」と言って。「アイゴ、どうすればよいか、どうすればよいか。この船で渡って行けるのか」と言って。

船 [の中] に入って行って [船底の?] 合板を開いてみると、船より、水がそのまま上に上がっていた。大変だ、大変だ。だから、水がどんどん入ってくるから、「観世音菩薩、観世音菩薩」と言っていると、私は泣けてきた。だから「観世音菩薩、観世音菩薩」。そう言って、行ってみると、対馬の海に着いていた。こうして生きて着いた、その時に。アイゴ、恐くて。ウミミタラ [海見たら]、その時は生きて行けると思わなかった。小さな古い船で。船から見ると水 [海] がみな見える。츄랄란 츄랄란 츄랄란 츄랄란 [ざぶんざぶん]。プラスチックでつくった船だから。だけど、とても早い。だから ^{스익스익스익스익스}췍췍 [スイスイ] 飛んで行って。

—対馬からどこについたんですか。

金：どこの明かりなのか、埠頭に。今またそこに行っても、ふたり、ふたりが手をとって、とりとめのないことを、こうだ、ああだと話しながら。いや、泣きたいことも笑って(笑)。

—その時一緒に来た人は。

金：釜山にいる。

[密航で来た時は] ただ、私は日本語は話せずに、韓国語しか知らないの。何かと言って「ハハハハ」。笑うだけ。笑う ^{히얌네}喜네 [まね] だけ。そして隠して、隠れて入ったら、部屋、クモいっぱい ^{이신디}이신디 [いるとこに] 行って隠したら、「あ、船が捕まって」言うて、船長ひとりが捕まって、「アイゴ、調べに来るからどうしよう」、どうしたらいいかと言って。夕食はそこで、どうぞ安心しなさいと言って、ドンブリにご飯を [盛って] 美味しくつくってくれた。そのドンブリを食べ終わったら、「船が捕まった」言うて。今度は、

ここにシラベ [調べ] に来るから、倉庫のようなところに入って隠れると言って。そこに隠れた。

朝には顔も洗う時間もなく、朝の飛行機、朝の「電車乗らなアカン [電車に乗らなければならぬ]」と言って、今度はまたふたりで行って、「何も言うな」とそう言って。少し、遠くから互いに見ながら駅まで行って。駅に入ると、そこで顔を洗って、化粧して。少し人らしくして。そうして電車乗って大阪まで来て。

—その日のうちに大阪に着いたんですか？

金：はい。

—大阪に着いて、鶴橋ですか？

金：鶴橋じゃないし。生野区くらいやな。生野区くらいやな。階段や。鉄でできた古いカイダン。^{タングルタン タングルタン タングルタン タングルタン} 당글랑 당글랑 당글랑 당글랑[ガランガランガラン]。音が出て。上がって来て。またそこで「もう安心してください」。そこのオクサンが「安心してください」と言うから。やくざの親分。やくざ、そんな人たちがする商売で、やくざ。でも女が出てきて「安心してください」。陸地の言葉で「安心して、心配しないで。ご飯も食べて。もう心配はありません」。こんなふうに言って。

—なんでそこに行ったんですか？

金：そこに行くと私の名前で電話してお金をもらう。お金をもらうと。

—あ、そこまでが、ずっとセットですよ。

金：そこに座らせて、ご飯を食べさせ、安心しろと言って。電話をかけて「だれだれさん知っていますか？」と言うと、「はい、知っています」と言う、「じゃあ、ここはどこだから迎えに来てください」と言う「あ、はい」。そして、迎えに来たらお金を渡して連れて行くのです。ソレガ [それが] 密航商売。

—誰が迎えに来てくれたのですか？

金：うちのお母さんが人頼んで。

*本研究は科学研究費補助金（課題番号 21330119）の助成を受けたものである。

上篇（『大阪産業大学論集 人文・社会科学編』第15号，所収）正誤表

頁	行	誤	正
160	9～10	便がしたくて便を服に包んで歩いたこともあった	便がしたくて便を服に漏らして歩いたこともあった
164	26	調査が足りないと言うから	調査をしに来ると言うから
165	3	剣を振りかざして	ピンタを張って
169	11～12	そのまま部隊から出て行って	腹を立てて

おことわり

『大阪産業大学論集 人文・社会科学編』第13号（2011年10月）に掲載した「解放直後・在日済州島出身者の生活史調査（10・上）」の下篇は，都合により，本論集には掲載できなくなりました。読者のみなさまには，謹んでおことわりとお詫びを申し上げます。